

# I 研究の概要

## 1 研究主題

### 生きる力を身につけた笑顔あふれる岐宿っ子の育成

～家庭・地域との連携・協働を通して～

## 2 主題設定の理由

平成29年4月、旧岐宿・川原・山内の3小学校閉校により、現在の統合岐宿小学校が創立された。統合以前の3校では、学校と地域が一体となった教育活動が展開されており、統合後は、3校区の地域が1つの共同体となり、学校と連携・協働して子供一人一人をみんなで温かく見守るような社会総掛かりでの教育の実現を目指している。

本校の学校教育目標は、「笑顔あふれる 心身共にたくましい子供の育成 ～ふるさとを大切に、笑顔あふれる楽しい学校～」である。この学校教育目標の実現を目指すと共に、コミュニティ・スクールの実施に向けて、「夢・憧れ・志」を育むために、学校と家庭・地域との連携・協働を目指している。

研究主題の「生きる力」とは、本校の子供たちに身に付けさせたい資質・能力である。本研究では、学校と家庭・地域とが連携・協働することで効果的に育まれる資質・能力として、「ふるさと教育」「自己有用感」「夢・憧れ・志」に焦点を当てることにした。

#### 岐宿小学校の子供たちに身に付けさせたい資質・能力

【豊かな心】	【確かな学力】	【健やかな体】
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 思いやりのある子</li><li>・基本的な生活習慣（あいさつや返事）を身に付ける力</li><li>・相手を思いやり、自他共に大切にできる心</li><li>・ふるさとを大切に、夢や憧れをもつ力</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 楽しく学ぶ子</li><li>・基礎学力を身に付ける力</li><li>・学んだことを活用できる力</li><li>・自己有用感をもち、自分の考えを表現する力</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ たくましい子</li><li>・何事もあきらめず最後までやりぬく力</li><li>・進んで運動し、体力を高めようとする力</li><li>・命を大切にしようとする姿勢</li></ul>

「夢・憧れ・志」を育むために、地域のよさを知り、自分にできることを考えさせる。さらに、家族や地域の方との触れ合いの中で、地域の役に立っていることを実感させる。そのような連携・協働した教育活動を進めていくことにより、「ふるさとを大切にする心」と「自己有用感」が生まれ、子供たちの笑顔あふれる姿につながると考え、上記研究主題を設定した。

## 3 研究仮説

家庭・地域との連携・協働を軸にした「夢・憧れ・志」を育む教育活動を設定していくことで、生きる力を身につけた笑顔あふれる岐宿っ子を育てることができるだろう。

## 4 研究の内容

- (1) 学校運営協議会の設置を目指した組織づくりと年間計画の作成
- (2) 家庭・地域との連携・協働に関すること（家庭・地域と学校との具体的な取組）
- (3) 子供が「夢・憧れ・志」を抱く教育活動（地域人材を活用した授業実践）

## II 研究の実際

### 1 学校運営協議会の設置を目指した組織づくりと年間計画の作成

#### (1) 岐宿っ子育て協議会

コミュニティ・スクールへの移行に向け、段階的に学校運営協議会制度を整えていくために、学校支援会議の名称を今年度から「岐宿っ子育て協議会」と変更した。この協議会の組織のために、組織図の検討、メンバーの選定、地域コーディネーターの選出、会則案の検討などの準備を2年間かけて進めてきた。



5月に開催した第1回の岐宿っ子育て協議会では、育てたい子供の姿についてワークショップ形式で熟議を行った。熟議の結果、「いろいろな年齢の人との関わりの中で、子供に優しい心を育み、笑顔であいさつを行おうとする態度を育てていく」ことを共通理解した。10月に開催した岐宿っ子祭りについても、本協議会の中で推進計画について話し合い、地域の願いを反映した学校行事を開催することができた。

#### (2) 年間計画

	期 日	内容・協議事項
1	5月29日(火)	○ 学校経営方針 ○ 年間活動計画 ○ 目標に関する熟議
2	6月28日(木)	○ 岐宿っ子育て協議会の目標について ○ 学校評価について(説明) ○ 地域人材について など
3	9月6日(木)	○ 岐宿っ子祭りに向けての準備・推進計画 ○ 1学期学校評価集計結果報告 など
4	11月6日(火)	○ 岐宿っ子祭りの反省・総括 ○ 家庭実践部の取組(報告)
5	2月19日(火)	○ 2学期学校評価集計結果報告 ○ 次年度に向けて ○ 岐宿っ子育て協議会の目標についての反省

### 2 地域との連携・協働に関すること

#### (1) 地域実践部の取組

##### ① 行事支援部会

学校行事に関して、地域の方の支援をいただき、行事当日までの動きを統括することが行事支援部会の役割である。

運動会や教育週間の活動である地域の方とのふれあいペタンクでは、担当が直接連絡を取りながら詳細な打合せを行った。また、岐宿っ子祭りの場合は、活動内容が多岐に渡ったが、担当学年の教員がGTと連絡・相談をしながら準備を進めていった。行事支援部は、進捗状況の把握に努め、祭り全体の調整を行った。



運動会



ふれあいペタンク



岐宿っ子祭り

## ② 岐宿っ子見守り部会

学校(中学校も含む)と地域が協力して、子供たちが学校生活を安全かつ楽しく過ごせることを目的に、登下校の迎えと見送りや朝の挨拶運動等の活動を行っている。



地域の方の見守り



中学生とハイタッチ

## ③ 学習支援部会

学習支援を目的とするもので、授業において担当教員の補助として支援するG T・ボランティアを依頼・調整し、人材バンクの作成を行っている。

## (2) 地域行事での連携・協働

- ・漁火祭 (7月)
- ・岐宿町民体育祭 (10月)
- ・岐宿文化祭 (11月)
- ・八朔ロードレース大会 (12月)

地域行事に進んで参加することで、自分たちが地域を盛り上げているという意識が高まってきた。



漁火祭への参加の様子

## (3) 保育園との連携・協働

- ・小学校運動会に地区内3園が参加 (5月)
- ・第1回岐宿地区幼保小連携協議会 (6月)
- ・各園の運動会に児童が参加 (9月)
- ・生活科の学習を中心として、園児との交流活動を実施 (1月)
- ・入学説明会における新入生と5年生との交流活動を実施 (2月)
- ・第2回岐宿地区幼保小連携協議会 (2月)



入学前の体験給食

## (4) 中学校との連携・協働

- ① 小中合同の朝のあいさつ運動
- ② 小中合同会議 (時間割、行事、体育館使用等の連絡調整)
- ③ 小中合同の行事の実施
  - ・運動会、体育祭への相互参加 (5月, 9月)
  - ・避難訓練 (5月) ・中学生による読み聞かせ (7月)
  - ・学校保健委員会 (7月) ・合同研修会 (8月)
  - ・中学校合唱コンクールへの参観予定 (10月)



中学生による読み聞かせ

小中学生が互いの活動の様子を見ることで、中学生は良き手本として行動し、小学生は身近な憧れの対象として真似をしようとする姿が見られるようになってきた。

## (5) 家庭実践部との連携・協働

- ① 育友会役員会
  - ・コミュニティ・スクールの研究周知 (4月)
  - ・年間行事計画の説明 (4月)
  - ・岐宿っ子祭りの開催内容に関する協議 (9月)
  - ・岐宿っ子祭りの反省及び次年度の内容の協議 (11月)
- ② 育友会総会
  - ・コミュニティ・スクールの研究周知 (4月)
- ③ 育友会専門部
  - ・あいさつ運動 (通年)



環境整備作業



- ・学力向上のための「家庭学習強化週間」の設定
- ・運動会会場設営（5月）
- ・環境整備作業（8月）
- ・田植え・稲刈り作業（5月・10月）
- ・親子ダンス教室（9月）
- ・情報モラル研修（2月）

積極的に学校行事に関わったり，家庭学習について考えたりする保護者の姿を見て，子供たちが行事や学習を積極的に行おうとする気持ちが育ってきた。



親子ダンス教室

### 3 子供が「夢・憧れ・志」を抱く教育活動

本校では，様々な行事や交流活動，授業において，子供に「夢・憧れ・志」を育むことを意図して取り組んでいる。

#### <授業実践>

地域人材を活用した学習を数多く仕組んでいくことにより，特に，「自己有用感」，「ふるさとを大切に作る心」，「夢・憧れ・志」を育んでいきたいと考えた。そこで，生活科・総合的な学習の時間を中核にして他教科ともつながりのある横断的な学習を展開していくことを意図して今年度の授業研究のテーマを設定した。

#### 【授業研究のテーマ】

- ◎ 生活科・総合的な学習の時間を中核にして，**地域人材を活用した学習**を行っていく。
- ☆ 「自己有用感」 … みんなの役に立っていることを実感する。
- ☆ 「ふるさとを大切に作る心」 … 地域のよさを知り，自分にできることを考える。
- ☆ 「夢・憧れ・志」 … 目標とする人物や生き方（地域の方，中学生等）に出会い，自分の生き方について考える。

#### （1）低学年部会

本年度の研究の重点目標が地域人材を活用した教育活動である。低学年部会としては特に生活科の教科に絞って授業研究を進めることとした。地域人材を有効に活用しながら生活科の目標を達成していく。

##### ① 第2学年の取組について

ア 単元名 「さつまいもを育てて地域の方にプレゼントしよう」～野菜をそだてよう～

イ 本単元で身に付けさせたい力

- 活動を通して，自分自身，身近な人々，自然の特徴のよさと，それらの関わり等に気付かせる。

ウ 学習の様子

- さつまいもの苗を植える際，GTとしてJAの方からいも苗の植え方を教えていただいた。その後，青年部の方や老人会の方の協力を得てさつまいもの苗植えをした。後日，JAの方をGTとして学校に来ていただいて，さつまいもの苗を植えるまでのことについて話をいただいた。子供たちは，地域の方がGTとして来られたので，親しみをもって話を聞くことができた。



#### （2）中・高学年部会

総合的な学習の時間を中核にして，地域人材を活用した学習を行っていく中で，他教科ともつながりがある横断的な学習を展開していく。

##### ① 第6学年の取組について

ア 単元名 「五島市の未来を考えよう」

イ 本単元で身に付けさせたい力

- 岐宿町の修学旅行生の受け入れについて調べることを通して，岐宿町や岐宿の人々のよ

さについて改めて知り、岐宿町を誇りに思い、岐宿町の一員として自分にできることを行動に移そうとする態度を育む。

#### ウ 学習の様子

- 修学旅行生の民泊を受け入れている地元の方々を招聘した学習は、3、4名の小グループに1名ずつG Tに入ってもらい、対話の形でコミュニケーションを十分に取ることができた。その際、子供たちの中には、G Tの豊かな人間性を感じ、憧れを抱く子供もいた。



## Ⅲ 研究の成果と課題

### 1 学校運営協議会の設置を目指した組織づくり（岐宿っ子育て協議会）

- 回を重ねるごとに協議会の参加者の目の色が変わってきた。学校の運営に実際に携わる充実感のようなものを感じていただけようになったのだと考えている。
- 次年度のコミュニティ・スクールの本格実施に向け、地域の方々と組織する地域実践部との連携・協働に備えて校内研究の組織にC・S推進部を設け、地域実践部の各専門部とリンクするように整えた。地域実践部の組織化はこれからのことになるが、地域の方々にとっても学校にとっても、よい取組となるような実践を目指して、組織づくりを進めていきたい。

### 2 地域との連携・協働に関すること

全国学力調査質問紙から（本校6年児童への調査結果）※ 4点満点	4月	10月
地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、遊んだりすることがある。	2.6	3.4

- 調査結果の数値から、地域の方々との関わりが深まっていることを、子供自身が感じられるようになったことが読み取れる。もちろん、地域の方々の関わり方も手厚くなっていると感じている。地域COと学校COの役割分担が明確化してきたことで、地域と学校との情報の伝達の形が整った。地域コーディネーターは、校区内の各地区の公民館分館と連動するように組織化し、校内では、学校コーディネーターとC・S推進部の学習支援部が連動して校内のG Tや支援ボランティアの希望を集約するようにした。そうすることで、学校の希望するような人材についての情報を得やすくなった。
- G Tや支援ボランティアと授業者との打ち合わせの仕方が課題として残っているが、今後実践を積み重ねて改善を図っていきたい。

### 3 子供が「夢・憧れ・志」を抱く教育活動（地域人材活用）

全国学力調査質問紙から（本校6年児童への調査結果）※ 4点満点	4月	10月
① 自分にはよいところがあると思う	3.0	3.2
② 地域や社会で起きている問題や出来事に関心がある	2.9	3.3
③ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある	2.4	3.5
④ 将来の夢や目標を持っている	2.2	3.1

- 調査結果の数値から、地域の方々との触れ合いの中で、「自己有用感」や「ふるさとを大切に作る心」「夢・憧れ・志」が子供たちに育まれていることが読み取れる。学校や学校外で見せる子供たちの笑顔は、とてもいい表情をしており研究主題に掲げた「生きる力を身につけた笑顔あふれる岐宿っ子」が育ってきていることを実感している。授業をはじめ様々な教育活動においてG Tや支援ボランティアとして地域の方々に学校に足を運んでいただき、人材バンクもとても充実した。
- 授業のG T招聘については、教科等のねらいを達成するためにG Tを活用することでより高い効果が得られるような指導計画を作成していくことが課題である。学習のどの過程のどのような場面での活用をするのかについて探っていくために、今年度の反省を教育課程に朱書きしながら次年度以降に向けた準備も進めていきたい。また、学習支援ボランティアについては、気軽に学校に足を運んでいただけるように、校内に待機する部屋を設置するなど環境の整備を進めていきたい。

### 4 まとめ（今後に向けて）

コミュニティ・スクールとしてどのような授業実践をしていくかと模索した昨年度。コミュニティ・スクールの本格実施に向けて校内の組織をどのようにするのがよいかと模索した今年度。本格実施となる次年度以降もいろいろな模索をしていくことが本校には求められていると考える。コミュニティ・スクールが本格実施することで、職員の異動があっても、学校と地域との連携・協働はスムーズに行われると考えられるが初年度の不安もある。また、市内の学校がコミュニティ・スクールを立ち上げていくことになれば、そのノウハウについて情報を提供していくことが求められるようになる。本校は家庭・地域と連携・協働しながら、長崎版コミュニティ・スクールとしての望ましい姿を模索し続け、地域とともにある学校を目指し、ふるさとを大切に、笑顔あふれる楽しい学校をつくりあげていきたい。